

英語科の授業づくりのステップ（単元編）



- 単元の構成に当たっては、「ゴールの明確化」が大切となります。
単元で目指す児童生徒の具体的な姿や身に付けさせたい力を、CAN-DOリストに基づいて明確にします。
- 単元のゴールからバックワードデザイン（逆向き設計）して1時間ごとの目標を定め、各1単位時間の活動を組み立てながら単元を構成します。

＜バックワードデザインによる単元構成＞

① 自校で設定している CAN-DO リストに基づいた単元目標を設定

② 目標達成に適した課題と評価規準を設定

③ 単元の終末で行う定着度を見取るアクティビティやパフォーマンステストを設定

④ 本時レベルで行う言語活動につながりをもたせる（ゴールに向かうイメージ）

⑤ スモールステップで活動をつなげる

単元のゴール
は何か？

単元計画を作成する際の留意点

- ① CAN-DO（英語を用いて何ができるのか）の視点からゴールを設定していますか。
- ② 語彙や文法事項等を覚えさせることが主たる目標になっていませんか。
- ③ 単元末までにできるようになっていることを意識して作成していますか。
（児童生徒のどのような姿をイメージしていますか。）

こんなことも大事な
視点です。



- 単元の最初に「単元を通して身に付ける力」「設定する課題」「ルーブリック」「ゴールの姿」などを児童生徒と共有すること。
- パフォーマンステスト等を設定して、児童生徒にどのような力が身に付いたか、どこでつまづいているかなどを見取ること。
また、パフォーマンステストで見取る力を日々の授業で言語活動として位置付けること。



【参考】 中学校外国語科 パフォーマンステスト ハンドブック（令和2年3月北海道教育委員会）
https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/fs/8/8/3/1/2/2/1/_/hb1.pdf

Hokkaido CAN-DO リスト

これを基に、自校の児童生徒の実態に合った CAN-DO リストを作成し、ゴールの姿として指導します。

	小学校卒業段階	中学校卒業段階	小・中学校の接続	
聞くこと	ゆっくりとはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。	はっきりと話されれば、日常的、社会的な話題について、話の概要や短い説明の要点を捉えることができる。	○ ゆっくりとはっきりと話されれば ○ 短い会話や説明 ・食べることや食べ物など ・イラストなどの視覚的な情報も活用	○ はっきりと話されれば ○ まとまりのある話や説明 ・お気に入りの日本食など ・広く日常的な話題から社会的な話題
読むこと	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。	日常的、社会的な話題について、必要な情報を読み取ったり、話の概要や短い説明の要点を捉えたりすることができる。	○ 簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる ・言語外情報（掲示、パンフレットなど）を伴って示された語句や表現を推測して読む ・音声と文字とを関連付ける指導	○ 目的に応じて、必要な情報を読み取る ・目的や、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を読み取る ・発音と綴りとを関連付ける指導
話すこと （やり取り）	簡単な語句や基本的な表現を用いて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や依頼などについて、自分の考えや気持ちなどを伝えることができ、自分や相手のことなどについて、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	簡単な語句や文を用いて、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、即興で伝えたり、相手からの質問に答えたりして、伝え合うことができ、社会的な話題について、自分の考えやその理由を述べ合うことができる。	○ 相手の依頼に対して、自分で考え判断して伝える ○ 英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりする	○ 不適切な間を置かずに考えなどを伝える ・限られた時間でまとめた内容を整理して伝えること ・伝えた内容に対する質問に応答すること
話すこと （発表）	簡単な語句や基本的な表現を用いて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。	簡単な語句や文を用いて、日常的な話題について、即興で話したり、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話したりすることができ、社会的な話題について、考えやその理由などを話すことができる。	○ 聞き手に分かりやすく伝える ・複数ある内容の順番を決めたり、選んだりすること	○ 既習の知識や技能を生かしてその場で話す ○ コミュニケーションの見通しを立てて話す ・話し手として伝えたい内容や順序を決めること ・聞き手に分かりやすい展開や構成を考えること
書くこと	自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、語順を意識しながら書き写したり、例文を参考に書いたりすることができる。	簡単な語句や文を用いて、日常的、社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書いたり、考えたことや感じたことを書いたりすることができる。	○ 自分が表現したい内容のものに置き換えて文や文章を書く ○ 例示された語句や、文の中から選んだものに置き換えて文や文章を書く	○ 文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書く ○ 読み手に伝わるよう意識しながら、最もふさわしい表現形式を工夫して書く

★CAN-DO リストは「ゴールの姿（何ができるようになるか）」です。指導者と学習者で共有しましょう。

★CAN-DO リストを基に指導し、達成状況を把握して、指導改善につなげましょう。

英語科の授業づくりのステップ（本時編）

- 1コマの基本的な流れは、【例】（挨拶→ウォーミングアップ・復習→導入[今日のめあての確認など]→練習等→中心となる活動（言語活動）→振り返り→挨拶）
- 設定した「単元のゴール」からバックワードデザインして定めた1時間ごとの目標を「めあて（今日のゴール）」とし、各時間の活動を組み立てる。

Warming-up

英語の授業の雰囲気作り

- 歌やチャンツ等→授業前に既習事項を含む歌やチャンツを流し、歌って復習し、英語の授業の雰囲気を作る。
- 授業の始まりの挨拶→教師と児童生徒との挨拶の後、児童生徒がペアやグループ等で互いに挨拶を行う。
- 日時等の確認→当番の児童生徒が質問して他の児童生徒が答えたり、ペアで質問し合ったりさせる。
- スモールトーク→あるテーマの下、まとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや意見を伝え合ったりさせる。

Review

帯活動や既習事項を用いた復習

- スピーキング活動
 - 既習事項を用いて、与えられた話題について即興による会話、英文を絵で描写するピクチャーディスクリプションなどをさせる。1回目の後に不明な点を確認し、ペアを替えて2回目を実施するなど、自分の言いたいことを少しでも多く、また、より上手に発話でき、意欲や理解の向上につなげる。また、会話の内容を書く活動を取り入れるなど話すことと書くことの「技能統合」を意識した活動を行う。
- 単語や基本文等の練習→ペアで学習する単語や基本文を発話し、確認させる。書く活動なども行う。
- めあて（今日のゴール）の確認

Activity

めあてを達成するための活動

ポイント



- 新しい言語材料と出会い、用法を理解する活動
 - 習得させたい文法事項や構文を用いて活動することで用法を理解させる。
- 新出事項を習得する活動
 - 習得においては、ワークシートやICTなどを用いて繰り返し練習させる。
- 単元のゴールで行う活動を達成するために必要な活動（言語活動）
 - 新出事項を用いた活動では、インタビュー活動や児童生徒同士が異なる情報について対話しながら共有し合うインフォメーションギャップ等の活動を行い、単元のゴールの表現活動を構成する内容を少しずつ行うことで新出事項を習得するなど、児童生徒が自ら学ぶことができるよう支援する。
 - 教科書本文を扱う学習においては、習得の際は本文の続きとなるスクリプト（シナリオなど）を考えたり、長文を扱う際はリーディングや英文から疑問文を考えたり、英文に直接書かれていない問いに答えたりするなど活動を通して内容理解を深められるようにする。（主に中学校の授業で）
- 課題意識をもたせ、その解決に向かう活動
 - めあてを達成するために、どのような工夫をすればよいか課題意識をもって活動に取り組めるようにする。
- シェアリング→英作文や発話等の交流で自分の英語をモニタリングしたり、友達の英語からの気づきを促す。

Reflection

振り返りによるめあての達成や自分の学びの確認、次の授業への意欲喚起

ポイント



- 確かめる問題→習得については、その日の学習内容を用いた問いに挑戦することを通して自分の学習を確かめる。
- 課題に対するまとめ
- 振り返りシート等の活用による自己評価
 - 単元のゴールを意識して、本時の達成度についての確認や次の時間への目標をもたせる。本時に何を学習したか、何ができるようになったか、次時に何ができるようになりたいか、自分の学びはどうだったかなどについて振り返らせることで、次の時間に何を学ぶのか自己調整しながら、学習に臨むことができるようにする。

英語科におけるICT活用例

外国語指導におけるICT活用のポイント

ICT活用が目的と
ならないように気
を付けましょう！



言語活動・練習で活用

児童児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化

- 言語活動（特に「話す」、「書く」機会）の充実とパフォーマンステスト等評価への活用
- 言語活動で活用するための音声・文字・語彙・文構造・文法などの定着（繰り返し練習）
- 一人一人の能力や特性に応じた学びの機会の確保

（活用例）

- ・調べ学習等の場面で、インターネット上の多様な情報を外国語で検索・収集する。
- ・音声の速度を変えたり、繰り返し再生したりするなどの個別の支援を児童生徒が活用する。
- ・外国語を話す場面を録音・録画し、活動を振り返ったり繰り返ししたりすることができるほか教員が評価に活用する。
- ・インターネット上の文章添削ツール等を利用し、児童生徒が自分の書いたものを修正する。
- ・ネットワーク環境を利用して児童生徒が各自作成した成果物を瞬時に共有・蓄積する。
- ・他の児童生徒の発表の録画を見て、意見交流する。
- ・プレゼンテーションを作成して発表する。（プレゼンテーションソフト、動画など）
- ・パフォーマンステストの自己評価・ピア評価・ポートフォリオ評価へ活用する。
- ・動画教材やWebアンケートフォームを活用した家庭学習を行う。
- ・端末を利用したスピーチ、音読、聞き取り練習を行う。

など

交流・遠隔授業

遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時への対応

- 遠隔地や海外等の児童生徒、英語話者との「本物のコミュニケーション」
- 新型コロナウイルス対応や大規模災害等に伴う休業期間における学びの保障
- 小規模校における対話的な学びが可能

（活用例）

- ・インターネットを利用して、児童生徒一人一人が遠隔地や海外の人たちと個別に会話する。
- ・電子メールを読んだり書いたりする場面を設定し、実践的なやり取りをする。
- ・ALTなどとビデオレターをやり取りする等の国際交流や異文化理解の学習をする。
- ・Web会議システムを利用して、小小連携、小中連携の遠隔協働学習をする。

など

コンテンツ・授業運営

興味・関心、学習の質を高める

- コミュニケーションのモデル提示、「聞く」「読む」ための素材の提供
- 板書や説明時間の短縮等により、言語活動中心の授業展開が可能
- 写真やイラスト等により、日本語を介さずに英語のまま理解することを支援

（活用例）

- ・児童生徒の興味・関心や学んだ内容に関連のある資料を教材として使用する。
- ・デジタル教科書を活用し板書時間の短縮、視覚情報の活用、音声化を図る。
- ・言語活動の導入、取組方等の提示をする。

など

英語科におけるICT活用例

外国語指導におけるICTの具体的な活用場面(ICT活用時のポイント)

ICT活用にどのような効果があるのかが大事なポイントです！



【場面設定】アメリカからあなたの父の友人 John さんが、家族と一緒にあなたの家に遊びにくることになりました。John さんと父は、ビデオ通話で話していましたが、John さんは、次のように言っています。

We would like to go somewhere exciting in Hokkaido. My wife and I like to eat delicious food. And my wife wants to go to the famous and popular place, too. My daughter likes shopping. My son likes animals very much. Where do you recommend?

どのように答えますか？John さんとその家族に分かりやすく説明しましょう。

【状況】場所は旭川であること、「家族」で来ることになっていること、わくわくする楽しそうな場所をおすすめしなければならないこと

【活動】①まずは、情報収集

- ②分かりやすく説明するにはどうするかを考える
- ③英文でどのように伝えるかを考える

活動①

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	somewhere exciting in Hokkaido									
2		場所や店など	場所や店など	場所や店など	場所や店など	場所や店など	場所や店など	場所や店など	場所や店など	
3	Aさん	旭山動物園	旭山動物園							
4	Bさん									
5	Cさん	円山動物園	小樽水族館	サンピアザ水族館	札幌ラーメン	旭川市	旭川市	美瑛町	富良野	
6	Dさん									
7	Eさん	トリトン	ラーメン	朝顔イオン	海鮮丼					
8	Fさん	旭山動物園								
9	Gさん	サンギスカン	お寿司							
10	Hさん	かに								
11										
12										

スプレッドシート (情報収集)

他者参照(途中参照)で、みんなの考えを見ながら情報を集めていく。思い浮かばない時は、みんなのアイデアを参考に。つまずきを減らす。

活動②

- ・スライドを使う。
- ・地図や写真を使う。
- ・手書きのイラストを使う。
- ・理由を添えながら説明する。

「分かりやすく伝える方法」は1人1人異なる。端末を使うかどうか自分で選ぶ。

活動③

- ・スプレッドシート等で他者参照(途中参照)しながら英文を考える。
- ・子ども同士、子どもと教師で英語表現を考えていく。

英語科におけるICT活用例

外国語指導におけるICTの具体的な活用場面(ICT活用時のポイント)

ICT活用にどのような効果があるのかが大事なポイントです！

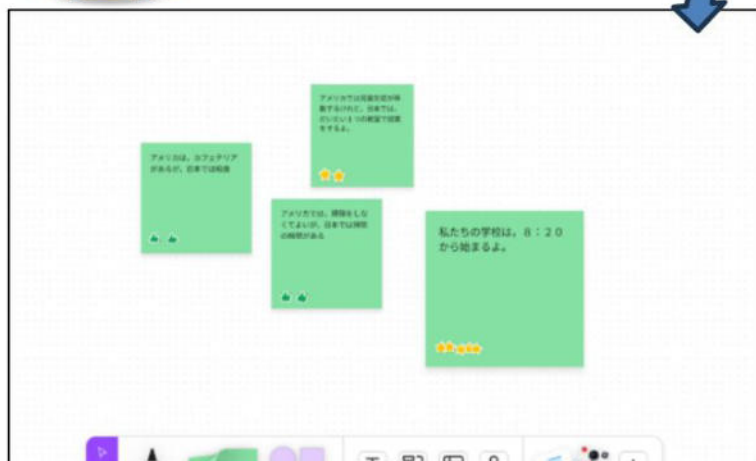


【場面設定】アメリカから留学生が来ることになりました。留学生は、日本に初めて来るようです。留学生にあなたの学校のことについて教えてあげる動画をグループで協力して作って留学生のところに送りましょう。

【状況】留学生は日本に初めて来るので、日本語や日本のマナー日本の学校のルールなどは分からない

【活動】①まずは、情報収集（日本とアメリカの学校生活の違い）
②英文でどのように伝えるかを考える
③どのような内容の動画にするか考え、撮影する

活動①



フィグジャム等のホワイトボードアプリ（アイデアの整理）

グループで、アイデアを出し合ったり、整理したりする。ふせんにそれぞれの意見やアイデアを書いて出し合っていく。同じ内容のものをまとめ、構成を考えていく。他のグループのアイデアについても参照しながら進める。

活動②

- ・原稿を作成する。（原稿は、ノートやプリント、端末で準備）
- ・伝える順番など、内容について吟味する。

活動③

- ・端末を使って、お互いに撮影し、練習をする。
- ・グループで動画を完成させる。（動画は繰り返し、撮影可能）

デジタル教科書の活用について

デジタル教科書の活用効果

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善において、デジタル教科書の活用も効果があると考えられます。デジタル教科書の活用効果には、以下のようなものが考えられます。
- ・一度で分からないときは、何度でも同じ箇所を聞くことができる。
 - ・一人一人自分の聞きたいところが聞ける。
 - ・単語や文の読み方がすぐ分かる。
 - ・説明のためのアニメーションが内容の理解に役立つ。
 - ・多様な教材、資料等に円滑にアクセスできる。
 - ・すぐ消して、すぐ書くことができ、簡単で使いやすい。
 - ・家庭でも、自分のペースで多様な資料にアクセスできる。
 - ・拡大することができるため、今までになかった気付きがある。
 - ・音声スピードも調整できるため、聞き取りや音読の練習がしやすい。
 - ・大型提示装置に教科書が映ると今どこをやっているか分かりやすい。
- など

デジタル教科書の学習上役立つ機能例

- ①拡大…教科書を拡大して表示できる。
- ②書き込み…教科書にペンやマーカーで簡単に書き込むことができる。
- ③保存…教科書に書き込んだ内容を保存・表示することができる。
- ④機械音声読み上げ…教科書の文章を機械音声で読み上げることができる。

デジタル教科書と他のデジタル教材や他のICT機器等を一体的に使用することで可能となる学習方法例

- ①朗読…音読・朗読の音声や英語圏に住んでいる人等が話す音声を教科書の文章に同期させつつ使用することができる。
- ②動画・アニメーション等…教科書に関連付けて動画・アニメーション等を使用することができる。
- ③ドリル・ワークシート等…教科書に関連付けてドリル・ワークシート等を使用することができる。
- ④大型提示装置による表示…児童生徒の手元の画面を大きく表示することができる。
- ⑤ネットワーク環境による共有…ネットワーク環境で、児童生徒の手元の画面を共有することができる。

授業におけるデジタル教科書の活用方法

- ①個別学習の場面
試行錯誤、写真やイラストを細部まで見る、学習内容の習熟の程度に応じた学習を行う
- ②グループ学習の場面
自分の考えを見せ合い、共有・協働する
- ③一斉学習の場面
前回の授業や既習事項の振り返りを行う、必要な情報のみを見せる、自分の考えを発表する
- ④特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難の低減
- ⑤その他
教材準備や板書の時間を削減し、児童生徒に向き合う時間を増やす など

文部科学省ホームページ「デジタル教科書」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/digital/1418610.htm



言語活動の充実に向けて

言語活動＝実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うこと

言語活動を充実させ、「自立した英語学習者」を育てましょう！



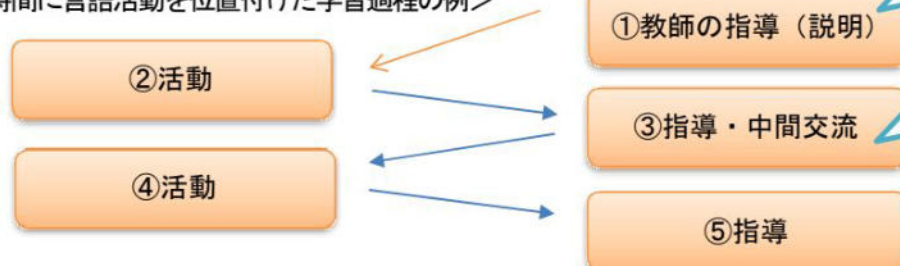
言語活動の繰り返しを通じて資質・能力を育成する

実際に英語を用いた言語活動の中で、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて、知識及び技能が習得され、学習内容の理解が深まり、学習に対する意欲が高まるなど、三つの資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要があります。

単元や1単位時間の中に「目的や場面、状況等」を設定した言語活動を計画的に位置付ける

- 「目的意識（＝なんのために）」「相手意識（＝誰に対して）」を明確にした言語活動を設定すること。
- 毎時間の授業において、単元の終末の言語活動につながるような言語活動を設定すること。
- 単元の第1時から一貫して、授業の中心が「言語活動」となるように設計すること。

＜1単位時間に言語活動を位置付けた学習過程の例＞



使用する言語材料を使った児童生徒とのやり取り

内容面からの指導
言語面からの指導

小学校における言語活動の設定のポイント

- 児童が興味関心をもつ題材を扱い、聞いたり話したりする必然性のある体験的な活動を設定すること。
- 相手意識と中身のある活動とすること。
- 初めて英語に触れることを踏まえ、まず「聞く活動を十分に設定」すること。
- 単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすること。

中学校における言語活動の設定のポイント

- 小学校で学習した内容の定着の状況などの生徒の実態を踏まえながら、必要な言語活動を行うこと。
- 小学校からの学びを中学校段階へ接続させること。
- 単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすること。
- 言語活動が、実際の学校生活で生かされる「本物」であること。

「聞く力」指導のポイント

求められる
(目指す)力

情報を正確に聞き取る・必要な情報を聞き取る・要点を捉える

情報を正確に聞き取る

- 音声や語彙、表現、文法や言語の働きを理解する。
- 知識を聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。

【学習活動の例】

- (1) 自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる。
- (2) 意味のまとまりを意識しながら、区切って聞いたり音読したりする。

- ◎ 「知識」が課題なのか、「技能」が課題なのかによって指導の仕方は異なります。どちらが課題なのかを見極めて指導しましょう。
- ◎ デジタル教科書などを活用しながら、小学校段階から聞くことの活動を繰り返し設定しましょう。



必要な情報を聞き取る

- 話されることの全てではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて必要な情報を聞き取る。
- 自分が置かれた状況などから自分にとって必要な情報を判断して聞き取る。

【言語活動の例】

- (1) 店、公共交通機関などで用いられるアナウンスで、必要な情報を聞き取る。
- (2) 学校行事の係分担や持ち物等の連絡、天気予報、交通情報で必要な情報を聞き取る。
- (3) 友達からの招待など、身近な事柄に関するメッセージを聞いて、適切に応じる。
- (4) 留守番電話機能にあるメッセージを聞いて、返事の電話をかける。

- ◎ 「必要な情報と必要としない情報に分ける」など聞き取りの視点を与えることが大切です。
- ◎ どのような情報が述べられているか、どのような語句や表現が使われているかなどを予測するように指導しましょう。



要点を捉える

- 話し手が伝えようとする最も重要なことは何か判断して捉える。

【言語活動の例】

- (1) 英語のニュースを聞いてその中の重要な情報を聞き取る。
- (2) 環境問題をテーマとした講演など、1つの話題を聞き、話し手が最も伝えたいことを捉える。

- ◎ 小学校では、身近で簡単な事柄について、概要が捉えられるような活動を繰り返し設定しましょう。
- ◎ 中学校では、日常的话题だけではなく、自然環境問題や平和問題などの社会的な話題も取り入れましょう。



「読む力」指導のポイント

求められる
(目指す)力

情報を正確に読み取る・必要な情報を
読み取る・概要や要点を捉える

情報を正確に読み取る

- 主語や動詞などの意味のまとまりを捉えながら読み進めることができるようにする。
- 既習の語や文法事項等の知識を活用し、言語外情報も活用しながら書かれている情報を読み取っていくことができるようにする。

【学習活動の例】

- (1) 絵や写真、グラフなどを説明する英文正確に読み取るため、I や you 以外の主語や無生物が主語になる英文を使って事実を伝える活動。
- (2) 思考の整理を促すワークシートなどを用いて、事実や考えなどを区別して読んだり書いたりする活動。

- ◎ 音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解することが大切です。
- ◎ 読むことによる実際のコミュニケーションにおいて、文法や言語の働きなどの知識を活用できる技能を身に付けられるよう指導しましょう。



必要な情報を読み取る

- 書かれている英文に含まれている情報を事実や考え、気持ちなどに区別しながら読み進める技能を身に付ける。
- 書かれている全ての情報を読み取るのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報なのかを判断して読み取る力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1) 広告や予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る。
- (2) スポーツクラブやサークル活動のパンフレットなどを複数示し、自分が通うことのできる曜日に自分が体験したいことを実施しているのはどれなのかを探す。
- (3) 取扱説明書から必要としている説明を読み取る。
- (4) 英文を読んでいる際、Does this sentence show a fact or an idea? と質問し、その文が事実を述べているか考えを述べているかを確認したり、Why do you think so? と質問し判断した根拠を考えさせたりする。
- (5) 思考の整理を促すワークシートなどを用いて、事実や考えなどを区別して読んだり書いたりする。

- ◎ 小学校では、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を読み取る活動を設定しましょう。
- ◎ 日常的な話題に関して、できるだけ「現実に近い」場面を設定しましょう。
- ◎ 文の一語一語の意味を全て理解するのではなく、自分が必要な情報を読むことができるよう指導しましょう。



概要を捉える

- 物語や説明文などのまとまりのある文章を読み、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉える力を身に付ける。
- 文と文の関係を読み取るなど、各段落内の構成を捉える力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1) 短いエッセイ、物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする。
- (2) 学校生活を紹介している短い文章を読む際に、それぞれの情報の関係を示す接続しに注目させながら文章の流れを理解したり、キーワードを拾い、全体としての内容を数文の英文にまとめたりする。
- (3) 友人や教師が休日を過ごした中で感じたことなどのエッセイを読む際に、出来事を時系列に沿って整理し、伝えようとしている内容を絵や簡単な英語で表現する。

- ◎ 中学校においては、教科書本文を活用して、言語活動を行うことも考えられます。ペアやグループの活動として、子どもたち同士が理解したことを共有しながら取り組むこともできます。
- ◎ 読む英文の題材に応じて様々な概要の捉え方を指導しましょう。(例：物語の場合には、時間の流れに沿ったあらすじを概要として捉えるなど)



要点を捉える

- 文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉える力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1) 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読み、イラストや写真、図表なども参考にしながら、筆者の主張を数文でまとめる。
- (2) 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読んで、筆者の主張を捉えた後に自分でできることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、それを簡潔に書いて表現したりする。

- ◎ 繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の構成を把握したりすることができるよう指導しましょう。
- ◎ 複数の段落からなる文章を読んで要点を捉える場合は、段落相互の関係を捉える指導をするようにしましょう。



授業改善のヒント



小学校では、簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように指導します。中学校では、さらに発展して、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるように指導します。読むだけでなく、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるができるよう、内容に対する感想や賛否、自分の考えを話したり、書いたりするなど、統合的・批判的に読む力を育てることが大切です。

「書く力」指導のポイント

求められる
(目指す)力

考えたことや感じたことなどを書く・関心のある事柄について正確に書く・まとまりのある文章を書く

書くことの本格的な指導は「中学校」から始まります。

考えたことや感じたこと、その理由などを書く

- 読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて表現する力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1)教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などをスピーチの形式や新聞、ホームページなどへの投稿文の形式で書く。
- (2)他教科でも扱われる自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題に関して読んだ内容を踏まえて、内容に関する感想、賛否やその理由などを書く。
- (3)友達のスピーチを聞いて、その内容を踏まえて内容に関する感想などを書く。
- (4)友達と社会的な話題についてやり取りをした後、その内容を踏まえて意見文を書く。

- ◎書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができるか指導しましょう。
- ◎内容や表現の改善では、教師がフィードバックしたり、子どもたち同士でコメントをもらったりするようにしましょう。



授業改善のヒント



言語活動を行う際、読むこと、発表、やり取りをした上で、表現するなど領域を統合した言語活動を行うことが大切です。

内容や表現の改善点を引き出す指導例



自分の考えを最初にしっかり述べていました。
She used "I agree with you". I want to use it.

What are the good points of your partner's writing?



I wrote "I think so, too".

It's a good expression to show that you agree with someone. Did anyone use different expressions?



Very good. We can use "I think so, too." to agree with someone, too.

関心のある事柄について正確に書く

- 音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
- 自分で英語の誤りに気付き、修正を加えながら正確さを高める力を身に付ける。
- 関連のある文法事項をまとめて整理し、使い方の理解を深める。
- 意味のある文脈の中でより適切な表現を選択して活用する力を高める。
- 言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択する力を身に付ける。

【学習活動の例】

- (1) 文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする。
- (2) 書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて、自分で読み直して誤りを修正したり、ペアでチェックし合ったりして正確な英文に書き直す。
- (3) 既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える。
- (4) 意味のある文脈を設定し、適切な表現を選択して書く。
- (5) 教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読する。
- (6) 関係性の異なる相手を複数設定し、それぞれにおけるロールプレイを比較しながら表現を使い分ける。
- (7) 既習の表現を同じ言語の働きごとに分類したり、同じ言語の働きをもつ表現同士を比較して相違点を考えたりする。
- (8) 英語における「相手の行動を促す」言語の働きを類推する。

◎「英語を正確に書く」指導をするためには、外国人英語指導助手（ALT）と一緒に指導することも非常に効果的です。



まとまりのある文章を書く

- 文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書く力を身に付ける。
- 出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする際、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことにふさわしい表現を工夫して書く力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1) 学校生活や家庭生活における出来事について、電子メールや手紙、日記、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したりする文章を書く。
- (2) 身近な話題や体験談などについて、手紙や電子メール、新聞の投稿欄などの形式により、自分の考えや気持などが伝わるように文章を書く。

- ◎書いたものをペアやグループで読み合い、言語面での気づきを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考にして推敲するなどの活動も設定しましょう。
- ◎まとまりのある文章を書くために、読むことの活動を書くことの活動につなげていく指導をすることも大切です。



小学校では、①大文字、小文字を活字体で書くことができる、②書き写すことができる、③例文を参考に書くことができるようにすることが目標となっています。その点を踏まえながら、中学校ではこれらのことを意識して書くことの指導をする必要があります。

「話す力（発表）」指導のポイント

求められる
(目指す)力

考えたことや感じたこと、その理由など
について話す

考えたことや感じたこと、その理由などについて話す

- 自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話す力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1)得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする。
- (2)なぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする。

- ◎小学校段階で、内容を整理した上で、自分の気持ちや考えを発表できるようにした上で、中学校段階で、「即興で伝える」「内容のまとまりを意識して伝える」力を身に付けるよう指導しましょう。
- ◎自分の考えだけではなく、理由を考えさせたり、発話に対して理由を尋ねたりすることなどについても指導しましょう。
- ◎話すことができる児童生徒を育てるには、小学校から中学校まで継続した指導が必要です。



授業改善のヒント



日常の授業から聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ちを述べる機会を設定することが大切です。また、自分の考えをもち、それを述べる機会を充実させるため、継続的に指導することが大切です。

話すこと（発表）言語活動を行う時には

○複数の領域を統合した言語活動の充実を図りましょう。

聞いたことについて話す、読んだことについて話す、中学校では、聞いたり読んだりしたことについて書くなど複数の領域を統合した活動を行い、これらを通して自分の考えをもつことができるように指導します。振り返りを活用し、課題がどこにあるのかを把握して、指導に生かすことも大切です。

○聞いたり、読んだりしたことについて、自分の考えを述べる指導を行いましょう。

日頃の授業において、自分の考えや気持ちを述べる機会を繰り返し設定します。自分の考えだけではなく、理由を考えさせたりすることも大切です。

○言語活動と合わせて、発話の「正確さ」を高めるための指導を行いましょう。

既習の表現を活用し、相手に伝わるように話すことができるように指導する際、必要に応じて、言語材料について、理解したり練習したりするなど、発話の正確さを高める指導も必要です。ペアやグループによる振り返り、クラス全体での共有を行うことも大切です。

「話す力（やり取り）」指導のポイント

求められる
(目指す)力

即興で伝え合う・関連する質問をする
考えたことや感じたことなどを述べ合う

即興で伝え合う

- 基本的な語彙、表現、文法事項を理解し正しく伝える力を身に付ける。
- 文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。

【言語活動の例】

(1)身の回りのことで子どもたちが共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる。

- ◎小学校では、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや意見を伝えるときに、相手に質問したり答えたりする力を身に付けるため、繰り返しやり取りをする場面を位置付けるようにしましょう。
- ◎中学校では、小学校から慣れ親しんだ表現を繰り返し使用することにより、確実に定着を図るよう指導しましょう。
- ◎学習段階を踏まえつつ、自然なやり取りとなるよう、不適切な間を置かず、相手に事実や意見、気持ちを伝え合うことができるよう指導しましょう。



授業改善のヒント



小学校、中学校共に、文法指導と言語活動を切り離して行うのではなく「場面や状況の設定を工夫」し、言語活動を通して、文法事項を身に付けられるようにすることが大切です。また、中学校においては、小学校でどのような語彙や表現を学習しているかを踏まえ、同じ言語材料を繰り返し使用させることで確実な定着を図り、異なる言語材料を用いることで表現内容の広がりや深まりをもたせることが大切です。

関連する質問をする

- 対話を継続・発展させるために、相手に聞き返したり、確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝え、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加える力を身に付ける。

【言語活動の例】

(1)会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする。

- ◎小学校では、話す力や聞く力を駆使して自分の力で質問したり答えたりできるよう指導しましょう。
- ◎Yes-No 疑問文や or を含む選択疑問文、疑問詞を含む疑問文などについて、語順、動詞の変化などを意識することについて指導するようにしましょう。



授業改善のヒント



疑問文を正しく活用するには時間を要するため、継続的に指導することやALTを活用すること、子ども同士で質問し合う場面を多く設定することが大切です。

考えたことや感じたことなどを述べ合う

- 得た情報について、内容を理解し、それに対する自分の考えなどについて英語で表現することが出来る力を身に付ける。

【言語活動の例】

- (1)ある話題に関する教師などの発話、映像や音声の教材など様々な媒体から得た情報や考えなどについて、ペアやグループでお互いに意見を出し合ったり、情報を交換したりする。
- (2)社会で起こっている事象について、どのような考えが望ましいか、自分であればどのような行動をとるのか、またその理由を説明したり、逆に相手により詳しい説明を求めたりする。

- ◎習熟の程度を考慮し、考えを整理するための時間を設定したり、日本語や英語でメモを作成したりすることも考えられます。
- ◎自分の意見を理由とともに述べ合う際には、多様な考え方が生かされるように指導しましょう。



中学校では表現の正確さを高めるための指導も大切

（例）やり取りした内容を整理して書く活動を通して、正しい表現に修正する

友達を紹介しよう

This is my friend、 Kumi.
She live in Midori city.
She like playing game.

Let me share this report. The contents are good.
We can get information about where Kumi lives
and what she likes. But we can find some
mistakes. Talk in groups and correct the
mistakes. It's okay to look at your books.

主語が She で現在のとき
は、動詞に s が必要だね。

game にも s が必要じゃ
ない？

そうだったね。city って小
文字でいいの？

We learned from our
classmate's writing. Now
check your own writing.



授業改善のヒント



やり取りには様々な活動があります。やり取りの言語活動を通して学習したことを他の言語活動や学習活動の場面において活用することができるよう工夫することも大切です。

英語科の授業づくりQ&A



Q1 小学校の外国語でどの程度単語を教えたらいいの？



A 1 学習指導要領上では、600～700語程度となっていますが、場合によってはそれ以上の単語を教えることも考えられます。

学習指導要領では、小学校の第5学年及び第6学年の外国語で学習する語、連語、慣用表現については、第3学年や第4学年の外国語活動で履修する際に取り扱った語などを含めて「600～700語程度」となっています。

日常の学習活動の中で、児童が自分の思いを伝える際、必要とする語が学習指導要領に記載されている語の中には含まれていない場合もあります。この場合、①自分の思いを伝えたい児童の気持ち、②考えや意見を受け取る児童への意識（相手意識）を考えさせる必要があります。自分の思いを伝えるために必要な語を身に付けたい、覚えたいと児童が思うことは、英語を学んでいく上で大切にしたい点ですが、その思いを受け取る相手に伝わらなければ意味がありません。小学校で英語を学んでいる児童同士で伝える際には、お互いに理解している教科書で扱う語や表現を使うことがよいと考えられますが、大人やALTに対してであれば、少し難しい単語を使ったとしても相手に伝わればよいと考えられます。だからこそ、「相手意識」が大切で、児童にも意識させたい点となります。

しかしながら、教科書で学習する語だけではなく、時には、意味が分からなくても、中学校の学習で出てくる単語を小学校の授業で取り上げてみるということもよいかもしれません。いずれ扱われる語を初めて見るのか、小学校段階で既に目にしているのかで中学校での英語の学習へのハードルが下がるかもしれません。



Q2 小・中学校の指導について交流する方法は？



A 2 ALTやICTをどんどん活用しましょう。

小学校と中学校で英語教育に携わる先生方が集まると、「子どもたちが小学校で身に付けておいた方がよい力は何ですか？」「小学校の先生方に望むことは何ですか？」「中学校までに〇〇ができるように指導してほしい。」という質問や意見が出されます。小学校と中学校が「連携」して指導することが、子どもたちにとって一番よいことですが、日常的に小学校と中学校の先生方が直接会って相談したり、意見を交わしたりする時間を作ることは難しくありませんか？

そのような場合においては、「ALTの活用」や「ICTの活用」が有効です。本市では、各中学校区において小学校と中学校に同じALTを派遣しています。今、小学校や中学校ではどのような授業を行っているのか、小学校での学習についてALTから聞いて中学校の学習に取り入れてみる、中学校の先生方に聞いてみたいことなどを尋ねてみるようにしてください。ALTは、英語教育のサポートだけではなく、小小連携や小中連携の一助となるような役割も担っています。また、ICTの活用により、オンライン会議システムなど勤務校で会話や相談ができるなど様々な形で素早く情報共有ができるようになりました。今後も、ALTやICTを効果的に活用し、英語教育の充実を図っていきましょう。



Q3 小学校の読むことや書くことの指導はどうなっているの？



A 3 小学校高学年の外国語の目標を確認しましょう。

小学校高学年の外国語の「読むこと」については、次のような目標になっています。

(読むこと)

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

また、「書くこと」については、次のような目標になっています。

(書くこと)

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

小学校では、上記のような目標に沿った指導が行われています。特に、「書くこと」については、音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を「書き写す」ことや例文を参考に、簡単な語句や基本的な表現を用いて「書くこと」ができるようにすることとなっており、学んだすべてのことについて書けるようにするわけではないことに留意して、中学校での指導を行うことが大切です。



Q4 英語科における「見方・考え方」って？



A 4 「見方・考え方」は深い学びのカギになります。改めて確認しましょう！

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。」です。

子どもたちが何かを伝え合う際、「何を伝えるか」と「英語でどのように伝えるか」の両者を考えることが必要で、目的や場面、状況に応じたより適切な内容を考えることや、既習の言語材料を活用し、伝えたい内容を表現できる形に変換して、何をどのように伝えるかを考えることが大切です。また、場面や文脈の中で相手意識をもって捉えるようにすることも大切です。

「見方・考え方」を働かせるためには、子どもたちが本当に伝え合いたいという思いをもって、既習の語彙や表現を活用するような場面が必要です。精一杯考え、表現する体験の繰り返し、生徒のコミュニケーション能力を高めていくことにつながるため、授業づくりをする際には、意識するようにしましょう。